

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592100020		
法人名	社会福祉法人清風会		
事業所名	グループホーム みさと		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町西郷区田代2208番地		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果市町村受理日	平成25年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosvoCd=4592100020-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年2月8日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会・ご家族に長きに亘り、貢献してこられた御利用者の方々、これからの余生がより良いものとなるように、これまで体験してきた事、これからも続けたいこと・できる事・大切にしたいこと等、御利用者が満足のいく・納得のいく援助を行いたいと思う。職員達の人生の先輩として、敬う姿勢を大切にして、お世話させていただきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年4月に社会福祉法人が開設したグループホームである。2年目であるが、職員は介護職として経験豊富な人材が配置されており、穏やかな雰囲気の中で、日常生活が営まれている。全職員が、利用者を社会や家族に貢献した先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重しながらケアに努めている。「家庭的な環境の中で、安心して生活できるようにやさしくお世話をします」という理念の下、丁寧な言葉かけ、さり気ない介助を実践している。管理者は、運営推進会議の意見や提案をホームの運営、サービスの向上に反映させており、地域の協力を得ることで、利用者の安全確保に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で事業所理念を作成し、理念に基づき、理念実践ができるように努めている(私たちは、施設を利用される方々が、家庭的な環境の中で、毎日安心して生活が送れるように優しくお世話します)。	ホーム開設時に、職員で理念を作成している。管理者は、理念を毎朝唱和することは、家庭的な雰囲気の中では不自然であると考えおり、職員もそれを理解し、日々の支援の中で、理念が具体的に生かされるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設が所属する地域の区長が、施設運営推進会議のメンバーであるため、区民として認識して頂くように協力要請し、現在は上野野住宅組合に所属している。	自治会に加入し、回覧板や広報紙が回っている。地区のイベントに参加し、「生き生きサロン」の会場にホームを提供するなど、地域との交流に努めている。祭りのみこしがホームに来たり、利用者が祭りの席に招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会や食生活改善グループの方々の企画の中に「生き生きサロン」という地域住民参加型のイベントがあり、24年度、施設で実施して頂いた経緯がある。施設の様子と、利用される方々の様子を知っていただく機会が持てた。徘徊者を見かけたら、連絡いただく手段として、施設広報を発送した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の行事報告や事故報告を行い、課題提供してきている。また、運営推進委員の方々のほうからも提案があり、改善された事例として、防災面で避難経路の狭いところに車が停止してあったことがあり、災害時は危険である。狭いところに車が停止されないように、駐停車禁止の表示をしてはとの提案があり、表示したこと。施設裏に災害時の避難道を設置してはとの提案事項があり、運営推進委員である区長・行政の方々から、町のほうに提案して頂いた経緯がある。拡張工事の事業開始までには至っていないが、課題として認識して頂いた事は、一歩前進である。	運営推進会議では、行事予定や事故等について報告し、課題について話し合いをしている。会議の中で、家族会が納涼祭に参加してはどうかとの提案があり、実現している。運営推進会議の意見をサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターのケアマネジャー・健康福祉課課長が運営推進会議のメンバーであることで、会議の場で施設の実情を報告し、知って頂くことができる。地域ケア会議に出席して、課題認識をして頂いている。	町の担当課長や地域包括支援センター担当者が運営推進会議に出席しており、ホームの運営状況を積極的に伝えている。管理者は、利用者に関する事、介護保険に関する事などを町の担当者に相談し、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間以外はしない。外出時は、見守り付き添いなどで対応して、拘束を行わない支援を実施している。	身体拘束をしないケアについて、職員会議、ケア会議において話し合いをしている。職員が気になることは、連絡帳に記入して回覧し、活用している。玄関の施錠は夜間のみとし、利用者の安全に配慮したケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強を行い、職員浸透を図った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度の勉強で、職員浸透を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要に応じて、説明と理解を深める考え方を持っており、実践に努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が集まる機会を設けて、情報収集に努めた。また、日常的に利用者の要望把握・実践に努めている。	家族会や家族の来訪時に、意見や要望を聞いている。家族から、終末期について不安の訴えがあれば、管理者が十分に説明し、方針を共有するように努めている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で、意見が表現しやすい環境・関係を築き、意見収集に努めている。	管理者は、職員の意見や提案を聞いて、運営に反映するように努めている。トイレの棚の設置や洗濯物干しに関する事など、職員の提案が実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績に配慮され、資格試験取得に向けての援助などの配慮があり、恵まれた職場環境と言える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場環境としては恵まれており、施設内・外の研修・資格取得に向けての支援がなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で、意見交換・勉強を行い、施設や職員が資質向上・発展していく事を期待している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のコミュニケーションには配慮し、信頼関係の形成に努め、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族・ご本人のそれぞれの思いを理解することに努め、両者の思いに配慮しながら、関係性が良好に保てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に情報を得て、必要としている支援を見極めて、納得して生活が送れるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側・する側の関係性を脱却し、ともに生活する者同士の関係性が形成出来るように、食事の準備や洗濯物をたたむ作業などの日常の作業を通じて、協力し合ってその形成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族・ご本人のそれぞれの思いを理解し、両者の思いに配慮しながら、ご本人を支える共同者としての関係を築く努力に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者がこれまで関わった場所・方々の関係性を大切に、地域のイベント・季節の墓参り・面会者とのコミュニケーション援助・お茶出しで、その場が和むように支援している。	地域のイベントへの参加、墓参り、自宅への訪問などを行い、なじみの関係継続の支援に努めている。また、親戚や近所に住んでいた方などの来訪者を大切にしている。食材に山菜を取り入れて、利用者がなじみの食事を楽しむ工夫もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ住居で生活する者同士として、関係性が良好に保てて、支えあいができるように、関係性が保てるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方について、ご家族や元利用者に地元で出会った場合は、声を掛け、関係性の保持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されている利用者の日々発生する希望・思い・意向を把握し、その思いが実践できるように配慮している。家への想い・孫への想い・子供への想い・身体的苦痛や帰省願望を大切に支援している。	利用者の生活歴、家族関係等を参考にしながら、日々の会話の中で、希望や意向の把握に努めている。帰宅願望の強い利用者は、その思いを大切に寄り添っている。困難な場合は、家族の話聞き、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所経過する中で、理解した情報を基に、コミュニケーションに反映したり、その方の思いを理解して、日々の関わり方に反映する事で情報活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠パターンや行動パターン、個々の生活能力に応じて、援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のニーズに即した計画書となるように努めている。	アセスメントは全職員で行い、センター方式を一部活用している。介護計画は、管理者が作成して職員に提示し、モニタリングは1か月ごとに実施している。	アセスメント、介護計画、モニタリングは全職員が意見を出し合い、チームで介護計画を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の方法が、日常生活の流れの記録が主体となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズへの対応が施設サービスのみにとどまらないように、多機能に視点を向けて適合したサービス・対応が図れないか、課題認識している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に向けた視点を持ち、利用者が地域と関わりが持てるように、生きる力が持てるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の病歴に配慮し、希望のかかりつけ医に受診している。	受診は、職員が同行し、受診結果を家族に報告している。ホームの近くに医療機関があり、ホームとの関係を築きながら、受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職が配置されていないことに配慮し、些細なことでもご本人の主治医、また、地域の医療施設に連絡し、指示を仰ぎ、健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の必要な方々には、面会・病院の情報を得て、関係者との連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向に沿った考え方を大切にし、また、施設の持てる力を発揮し、地域の資源を活用して、個々が望む支援を行いたい。	本人・家族の意向や希望を尊重し、ホームでの看取りも可能であることを説明している。状況変化に応じて話し合い、方針を共有し、医療機関の協力が得られるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の訓練実施を美郷町の本部消防団より指導を受けた。今後も定期的実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防団との合同訓練を実施したが、今後も災害時に迅速に対応できるように、訓練を積んで行きたい。	地域消防団との合同訓練を年に1回、実施している。定期的に点検、確認作業を行い、防災に取り組んでいる。水や食料の備蓄はしていない。	夜間を想定した避難訓練や近隣の住民の参加を得て、合同訓練を実施すること、また、非常用食料や備品の準備を行うことにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護従事者の基本的な姿勢をもって、入所されている方々に関わっている。	利用者が失禁しても、放尿しても、さりげないケアをして、人格を尊重した対応をしている。利用者を社会や家族に貢献した先輩として敬い、全職員が丁寧な言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人尊重の考え方の下、声掛けを行っている。選択が必要な時は、伺いを立てて相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を尊重する考え方の中で、支援展開に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クリーム付け・整髪・洗面・手洗い・着衣、それぞれの個性に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を借りて支援している。片付け・茶碗洗い作業・皮むき・野菜の選り分け作業に協力される。	献立は職員が作成しているが、日ごろの会話の中で、希望を把握している。献立によっては、利用者に味付けをしてもらい、地域の食習慣を大切にする配慮をしている。また、外食の機会を設けて、食事を楽しむ支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	白湯の提供・水筒での配茶提供をしている。栄養バランスに注意している。食事作りには責任があり、担当になった場合は、バランスに配慮するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	強制とならないように、口腔残渣がある方は、毎食うがいを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力が発揮できるように、排せつ面でもトイレ排せつに努力している。	介助が必要、誘導が必要、パットを使用など、一人ひとりの状況に応じて排せつの支援を行っている。トイレの位置がわかるように表示を工夫して、混乱を招かないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉牛乳・梅酢・センブリ・食物繊維の摂取・便秘対策の講義・実習を行い、便秘対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯・曜日が固定されている。個別の入浴希望に配慮が足りない。	入浴の時間帯は決めているが、入浴日は月曜日から土曜日まで、利用者の希望に合わせて対応している。入浴剤を入れるなど、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンが固定していて、夜間覚醒している方は、自分で休息したい時間に休息して頂いている。また、睡眠確保が出来ているか配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報や主治医の情報を基に服薬管理し、結果の観察や訴えを基に、医療と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い・季節の梅干し漬け・もち作り・新聞読み・散歩・洗濯物たたみ・うなぎ食べ・外食等を実施してきた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に外出して頂いている。できない方へは個々の想いを実現できるようにしている。	地域のイベントへの参加、墓参り、自宅への訪問、誕生会の外食など、利用者の希望を尊重して外出支援をしている。近距離の単独の外出を見守ることもあり、戸外に出掛ける機会を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要求に応じている。携帯電話を所持していて連絡される方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物や季節の飾り物で、居心地がよい生活ができるように配慮している。	居間や食堂は南側に位置しており、自然の光と温度を活用した空間になっている。ホーム内はゆったりした間取りで、室内のあちこちに季節の花を生けて、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設空間利用に工夫が必要、模索中である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族持ち込み時に、馴染みの物の持参の協力要請を行い、対応していただいている。	洋室、和室があり、本人や家族と相談しながらベッドの位置等を決めている。重要事項説明書の中に、居室になじみの物を置くことの重要性和、どのような物を持ち込むことがよいのかを記載しており、入居時にきちんと対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各使用者が、利用しやすい、安全に配慮した環境設定に配慮している。		